

# 八幡市学校UD化構想

～子どもの“夢”と“志”をはぐくむ八幡の学校改革～

2005年（平成17年）11月

八幡市教育委員会

# 八幡市学校UD化宣言

～ユニバーサルデザインの視点に立った学校教育の実現～

私たちは、「子どもの“夢”と“志”をはぐくむ」をテーマに新しい時代の学校づくりについて討議を重ねてきました。私たちの社会は発展、高度化していく中で、効率と引き換えに、知らず知らずのうちに人間（ひと）と教育の多様性を軽視してきたのかも知れません。ここで、あらためて学校を改革し、子どもたちの教育環境を再構築することが必要です。

私たちは一人ひとりの人間性を尊重した学習環境を含む社会環境づくりをユニバーサルデザイン（UD）と呼び、その理念を学校教育において強力に実現していきたいと考えます。

ユニバーサルデザイン（UD）は、“一人ひとりの個性やニーズを尊重し、自分たちの身近にある当たり前なものを見直し、改善を重ねることにより、すべての人にとって暮らしやすい環境をつくっていかう”という考え方です。この視点は、子どもたち一人ひとりの個性や共生の心をはぐくむ学校教育においても大切です。

もちろん、私たちは学校のUD化が即座にすべての問題を解決できる魔法の杖だとは考えていません。しかし、時間をかけて目標に向かっていくことは可能だと思っています。

そのためには、子どもたちが主体的によりよく生きる力としての豊かな「人間力（にんげんりき）」を身につけ、ともにやさしく住みよい社会を担っていく「よき市民」に育っていくことを願い、子どもたちや保護者が積極的に声を出すこと、そしてそれをきちんと受けとめ、応える教育行政や学校のしくみが必要です。

私たちは前進します。人間（ひと）がその個性を発揮しながら、いつまでも生き生きと学び、暮らしていける社会をめざします。

目標は、『自分をつくり八幡をつくる子ども』たちをはぐくむため、ユニバーサルデザイン（UD）の視点に立った学校教育の実現です。

ここに宣言いたします。

2005年（平成17年）11月

八幡市教育委員会

# 八幡市学校UD化構想の策定にあたって

新たな時代がはじまり、国際化や情報化、少子高齢化や核家族化など、私たちを取り巻く環境は急激に変化しています。また、価値観の多様化がすすみ、個の意見や考え方が尊重されるようになっていきます。

学校は、このような大きな流れの中にあり、さらに、いじめや不登校などの今日的な問題にも直面しており、これに対応できる新たな学校教育への期待が高まっています。

ところで、国では、様々な審議会等で検討を行い、学校に偏りすぎた「教育の責任」を家庭や地域社会が適切に分担するとともに、子どもの自発的な活動分野を拡大するなど、これまでの画一的な価値観に基づく知識偏重の教育から脱却する道を大胆に切り開くことを求めています。

そこでは、①「自立した個人」としての人格形成に必要な能力と意識を系統的に育てるとともに、あらゆる場を通じて人権の概念及び価値を理解させ、人権尊重の意識を高めるための教育を充実すること。②職業・労働体験などを通じた職業観の形成を図ること。③「国際化」の進展に対応するため、英語教育を充実するとともに、諸外国・諸民族の多様な文化を理解し、互いの違いを尊重し合いながら共生できる力を育てる教育を進展すること。④「技術革新・情報化」の進展への対応に関する基礎教育の内容を充実させることが求められています。

八幡市教育委員会でも、八幡らしい学校改革に取り組むため、平成13年度から八幡市学校再編整備検討委員会を立ち上げて検討をすすめ、学校教育を含め、さらに学校のあり方および家庭や地域との連携のあり方などについて、市民委員会や地域協議会、子ども会議、学校改革懇話会を設置し、幅広い分野からご意見をいただき、これからの学校改革の基本構想として策定しました。この「八幡市学校UD化構想」は、今後10年間をめぐり、創造性に富み、しなやかで、個性豊かな子どもを育てる学校教育を実現するとともに、地域の活動拠点となる学校づくりに取り組むためのものです。

この学校UD化構想を基にして、市民の方々などで幅広く議論がなされ、将来の社会を担う子どもたちが、夢や希望にあふれ、それぞれの目標に向かって努力を続け、様々な課題を乗り越えた達成感を味わい、健やかに成長していくことができるよう、学校が変わるとともに、学校と家庭・地域の連携の輪が一層広がっていくことを願っています。

2005年（平成17年）11月

八幡市教育委員会  
教育長 今井 興 治

# I はじめに

---

---

社会が急激に変化し、学校への期待が高まっています。

八幡市では、このような変化や期待に対応するため、子どもたちが生涯にわたって自らの夢や未来にチャレンジできるよう、これまでの取り組みの成果を受け継ぐとともに、新たな視点に立った学校づくりに取り組みます。

## 1 社会の変化

私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。

今日、国際化、情報化などに伴い、ボーダーレス化はますます進展するとともに、科学技術の発展により産業、社会、経済など様々な分野が大きく変化しつつあります。また、モノが豊かで成熟化した社会の中、個性尊重の意識の高まりや価値観の多様化がすすむ一方で、核家族化や少子高齢化は、私たちの社会に様々な影響を及ぼしています。

このような大きな社会の流れの中で、子どもたちは、魅力ある人間として主体的によりよく生きる力としての豊かな「人間力（にんげんりき）」を身につけていくことが必要となっています。

## 2 学校を取り巻く環境

社会の変化に対応して、学校のあり方や学校への期待も変わりつつあります。

今、国においては、教育改革の課題やスケジュールを明らかにした「教育改革プログラム」をつくるなど、教育改革が進行中です。「生きる力」や「ゆとり」をキーワードに、小中学校では平成14年度から完全学校週5日制が実施され、新しい学習指導要領に基づいて、教育内容が約3割削減されるとともに、各学校がより一層創意工夫を生かした教育活動を展開できるようになってきています。

また、心豊かな子どもを育てるため、幼児期からの心の教育のあり方について、学校、家庭、地域の教育のあり方を見直すことも求められています。

さらに、今日、いじめや不登校など、多くの課題を抱えている学校が、これらの課題解決に向けた取り組みを強化・充実することも大きく期待されています。

## 3 学校UD化構想の策定にあたって

次代を担う子どもたちが、未来に向かって明るい希望をいだき、志を持って、自らの夢にチャレンジしていくことのできる学校づくりは、私たち共通の願いです。

社会が急激に変化し、将来が不透明となっている中で、これまでとは異なった学校や学校教育のあり方が期待されています。そして、子どもたちは、自分が生活している地域の一員

として、自らの存在感を確かめながら、世界的な視野を持ち、自分の夢や希望を実現できる環境を求めています。

そのため、子どもたち一人ひとりが、学校、家庭、地域のそれぞれの生活の中で自分を確かめながら、自分の未来を自分らしくつくりあげていけるよう、子どもの健全な成長を支えるしくみづくりが必要となります。

## 【ユニバーサルデザイン】

「ユニバーサルデザイン (universal design)」という用語は、「すべての人のためのデザイン (構想、計画、設計)、みんなにやさしいデザイン」です。年齢、性別、国籍、身体状況など、個々の人間の特性や能力に関係なく、はじめから、できるだけ誰もが利用しやすいように、まちや建物、環境、製品、サービスなどをつくろうとする考え方です。1980年代にアメリカのロナルド・メイスらによって新しく作り出され、次の7つの原則が提唱されています。①誰にでも公平に利用できること、②利用者に応じた使い方ができること、③使い方がすぐにわかること、④必要な情報がすぐに理解できること、⑤使い方を間違えても重大な結果にならないこと、⑥無理な姿勢をとることなく小さな力でも使えること、⑦利用者に応じたアクセスのしやすさと十分な空間が確保されていること。このように、ユニバーサルデザイン (UD) は、普通だと思われていることをもう一度見直す意識や気づきを促進させる考え方であると言えます。

一方、バリアフリーは、「お年寄りやからだの不自由な人のために、今あるバリア (障壁) をなくす」という考え方です。今あるバリアをなくすことも大切ですが、ユニバーサルデザイン (UD) は、特定の人を限定せずに、利用しやすいものをめざしています。

ユニバーサルデザイン (UD) とは、あらゆる人に快適で使いやすい環境、モノやサービスを提供することをめざす社会的な意識や態度のことなのです。その根底には、「機会の平等」の思想があります。社会的な平等を達成するために、あらゆる人に社会にかかわる機会が平等に提供されるべきであるという考え方からです。

今後、少子高齢化や国際化、市民の価値観の高度化、多様化がさらにすすんでいく中で、障害のある人や高齢者、外国人、男女など、それぞれの特性や差異を越えて、すべての人が暮らしやすく、活動しやすい社会をつくっていくことが重要な課題となっています。こうした社会をつくっていくためのキーワードがユニバーサルデザイン (UD) です。

## Ⅱ 学校UD化構想の全体像

子どもは、学校、家庭、地域で、それぞれの一員として様々な活動に参加し、社会とのつながり確かめていきます。

子どもが自らの個性を生かして夢や希望を実現できる場は、子どもの生活全体の中にあります。

あらゆる人が安心して快適に生活できる社会の実現をめざした「ユニバーサルデザイン（UD）」という考え方の上に立った学校づくりをすすめます。

そのため、子どもの成長を地域全体で支えられるよう、学校が変わり、社会の様々な変化に対応できる取り組みをすすめます。

### 1 学校UD化構想の概要

子どもたちの未来のために、八幡市における教育の「かたち（体制）の一新」と「きもち（発想）の転換」が必要です。学校は、社会性の育成や生涯を通して学びつづけるための学力や体力を育てる学習（支援）の場として重要な意義と役割があります。そのため、子どもたちが学ぶ意欲をはぐくみ、すすんで通いたいと思えるような学校づくりが必要です。

次代を担う子どもたちのために、ユニバーサルデザイン（UD）の考え方を八幡市における学校教育の基本理念として位置づけ、教育の「かたち」と「きもち」を改革していきます。

この学校UD化構想では、子どもたちの未来を考えて、すべての判断基準を「そのことが子どもたちのためになるものかどうか」に置き、八幡の教育の充実を図っていくことを目的としています。

八幡市では、ユニバーサルデザインの7つの原則を意識し、次の5つの要素に基づいて、新しい学校づくりに取り組んでいきます。

#### 学校UD化の要素

- ① 快適で安全な学習空間をつくる（空間的UD化）
- ② 情報、コミュニケーションを円滑にする（情動的UD化）
- ③ 時間を有効化し、学校生活を豊かにする（時間的UD化）
- ④ 適正な費用でモノやサービスを提供する（経済的UD化）
- ⑤ 学校生活にゆとりをもたらし、ストレスを軽減する（心理的UD化）

## 2 市民とともに、はぐくむ学校づくり

子どもの教育は、学校だけでなく、子どもの生活を重視する視点から、家庭や地域を含めた社会全体で取り組むことが必要です。

そのためには、学校、保護者や地域の人々が、それぞれの役割を果たし、互いに密に連携を取り合い、力を合わせて将来を担う子どもをはぐくんでいくことが大切になります。

さらに、地域の活動や様々な人と連携した魅力的な教育活動を展開するなど、地域によって支えられる「私たちの学校づくり」をめざします。

## 3 これからの学校教育のあり方

学校は、子どもたちにとって楽しい学びの場となるため、学校運営や教育方法などを子どもの変化に対応できるよう、積極的に改善し、魅力ある学校づくりに取り組みます。

また、これからの学校教育は、子どもの生活を重視して、主体的によりよく生きる力としての豊かな「人間力（にんげんりき）」を身につけられるよう、子どもどうしや教職員どうし、子どもと教職員が互いに学び合う教育のUD化をめざします。

さらに、学校は、子どもの生き方の教育をすすめられるよう、地域や市全体の課題などをその教育活動に取り入れます。

## 4 自己変革する教職員

将来の夢や希望に向かって自己実現をしようとしている子どもを支援することは、教職員が果たすべき重要な役割です。

教職員は子ども一人ひとりの個性を認め、子どもが自らの存在を感じられるよう、子どもの変化に対応できる資質を養うとともに、専門職として、お互いに評価し合うなど研鑽し、思いやりと信頼をはぐくむ教育活動をめざして、教職員自身が自己変革していくことが求められています。

### Ⅲ 八幡の新たな学校づくり

これからの学校は、子どもたち一人ひとりの生き方を大切にした教育をめざします。全員がナンバーワンをめざすのではなく、それぞれが魅力ある人間としてその個性を生かし、将来に夢や希望をいだき、自ら学び自ら考える力の基礎を身につけることのできる学校教育に取り組みます。

また、地域全体で子どもをはぐくんでいくため、学校の考え方や様子を保護者や地域の人たちと共有するとともに、子どもの声を生かした学校づくりをすすめます。

#### 1 学校のUD化とは

これからの社会では、性別に関係なく、子どもも高齢者も、障害のある人もない人も分け隔てなく、一人ひとりの人間として、個性や違いを互いに尊重し、それらの異なった個性が大切にされることが求められています。さらに、環境にやさしい社会の実現に向け、誰にでも、また、長期間にわたって利用できる施設や製品づくりなどが求められています。

ユニバーサルデザイン（UD）は、特定の人だけでなく、みんなにやさしいデザイン（構想、計画、設計）ということになります。さらに、ユニバーサルデザイン（UD）は、まちづくりやモノづくりだけではなく、助け合いや思いやりの心、マナーなど、一人ひとりが取り組むこともできます。

教育のUD化とは、子ども一人ひとりを大切にする教育です。子どもは、将来に夢や希望をいだき、その成長過程の中で自分を見つめ、主体的に生きていきます。このように、子どもが自分で自分の未来を切り拓いていけるように、これからの学校教育は、一人ひとりの子どもの成長過程を大切にする「学校のUD化」を推進していくことを基本とします。

#### (1) どうしてユニバーサルデザインが必要？

学校では、教職員と子どもたちとの信頼関係を基盤に教育活動が展開され、時代を超えて変わらない価値あるものを子どもたちにしっかりと身につけていかなければなりません。しかし、学校教育はいうまでもなく、次代を担う子どもたちの教育を行う場であり、これからの社会の変化を見通し、その変化に適切に対応できる力を育成することも極めて重要です。

今日、子どもたちを取り巻く社会には、様々な課題が山積しています。とりわけ、統計的なデータが示しているように、子どもが背負っている社会階層的・社会文化的な背景によって子どもたちの学力が大きく規定されることが指摘されています。新しい学校教育を創造していくためには、そうした課題についての取り組みを深めることが必要です。

これからの時代には、個性や異質を尊重する流れの一方で、共通項や類似性を探る動きがないと人間社会も学校教育もバランスを欠くことになります。そのため、新しい学校づくりには、ユニバーサルデザイン（UD）の導入が有効だと考えました。

子どもたちが成長していく間には、保育園・幼稚園、小・中学校、高等学校、大学等、いくつもの段階を通じて学びます。しかし、それぞれの学校段階はそれのみで完結するものではありません。さらに、学校教育は、すでに大きく変わりつつあります。子どもたち一人ひとりの個性に応じ、その能力を最大限に伸ばす教育が、それぞれの場で、愛情と熱意を持って展開される必要があります。

そのため、八幡市における学校改革では、ユニバーサルデザイン（UD）の概念におけるハードの領域としての物理的ニーズに対応する側面と、ソフトの領域、つまり人の対応やコミュニケーションでカバーできる側面を、八幡市における新しい学校づくりの基本理念として位置づけていく必要があると考えました。

「ユニバーサル（universal）」とは、「普遍的な」「万人共通の」あるいは「一般のために」といった意味があります。ユニバーサルデザイン（UD）とは、特定の人のためのものではなく、年齢や性別、能力や障害の有無に関わらない、あらゆる人びとが快適で潤いのある生活を実現するために、社会を変えていくことをめざしています。それは、すべての人にとって人権・平等・安全・正義が実現される社会をめざすことです。ユニバーサルデザイン（UD）の精神は、学校の中と同時に、学校の外でもはぐくまなければならないし、学校とコミュニティの間の協働的営みを通してはぐくまれることが重要です。

子どもの権利の尊重という観点から、学校教育を改革し、子どもたちが個別の問題や課題を深く学習することはもちろん、それらを自分の暮らしと関連づけながら学習をすすめる、ユニバーサルデザイン（UD）という普遍的な価値はすべての人にとって大切であることを意識して取り組みます。

ユニバーサルデザイン（UD）の考え方は、これからの国際化、情報化や高齢化の時代を創造していくための、本質的な考え方の一つであると考えられています。

そこで、さまざまな人の立場にたって、ものごとをとらえ、あらゆる場面や利用者を想定し、デザイン（構想、計画、設計）するという、根本的な態度の育成が重要であると考えています。子どもたちがこのユニバーサルデザイン（UD）を学習し、魅力ある学校・まちづくりを担う人材の育成を図るとともに、日常的な学習活動やあらゆる場面で、ものごとのとらえ方としてユニバーサルデザイン（UD）の心を感じさせる取り組みを行います。

## （２） 基本的な考え方

私たちの住む社会には、いろいろな人がいます。その違いは、人種、性別、年齢、身体的特徴といったような、人間が生まれつき持っているものから、性格、趣味、学歴、知識といった人生経験において形成されてきたものなど、幅広いものがあります。これらによって個人差を生み出しています。

人間は、本来、できなかったことができるようになったり、わからなかったことがわかる

よくなれば、たいへん大きな喜びを感じるはずです。昨日まで知らなかった漢字が今日は一字でも多く書けるようになり、鉄棒ができ、絵が描け、掛け算ができ、笛が吹けるようになれば、それが人より早くても、遅くても、うまくても、へたであっても、非常に誇らしく、喜ばしいことです。

すべての子どもたちが安心して楽しく学ぶことができ、また、あらゆる人が利用したいと思えるユニバーサルな学校づくりが大切です。そのため、「楽しい」「安全」「文化」「健康」「環境」の5つの要件に関する水準の高い学校を創造していくことが求められます。「楽しさを追求した結果、かえってわかりにくい」、「安全に配慮しすぎて、肝心な使い心地が悪い」ということのないように、一つひとつ確認しながら、より安心で快適なやさしい学校づくりを追求していきます。

学校のUD化を一言でいえば、「さりげない配慮や工夫がいたるところにちりばめられている学校」ということになります。

ユニバーサルな学校づくりの要件	
要件1 「楽しい」	あらゆる人（子どもや地域住民等）が、多様なニーズに対応して整備された施設・設備とともに、必要な情報と信頼できる人的サポートを得て、「楽しく」学べ、利用できる学校。
要件2 「安全」	あらゆる人（子どもや地域住民等）が、事故等が起きないように配慮して整備された施設・設備と適切な人的サポートにより、「安全」に学べ、利用できる学校。
要件3 「文化」	あらゆる人（子どもや地域住民等）が、人びとの暮らしに密着した活動を行うことによって、自己実現を図り、人と人のふれあい・つながりを生み出し、より「文化」的な暮らしを実現することのできる学校。
要件4 「健康」	あらゆる人（子どもや地域住民等）が、学校の多様な施設・機能を利用することによって、心と体の活力を取り戻し、「健康」になれる学校。
要件5 「環境」	地域の自然・歴史・文化資産を積極的に生かすとともに、次世代に継承するため豊かな自然を回復・保全・再生した、「環境」と調和した学校。

## 2 学校UD化の推進 ～めざすべきユニバーサルな学校の姿～

学校のUD化をすすめるためには、社会の変化に対応し、子ども一人ひとりの興味や関心を深めることのできる教育が求められます。

学びの主体は子どもです。子ども一人ひとりが安心感や存在感をもって学習に取り組むことができることが大切です。そのため、子どもたちがすすんで通いたいと思えるような学校づくりをすすめるとともに、学校が地域全体に支えられるよう地域に開かれた学校づくりをすすめます。

このような魅力ある学校にしていくためには、子どもたちがより楽しく学ぶことができるよう、子どもや教職員がふれあい、子どもと教職員や、子どもどうしの理解を深めるとともに、学校、家庭、地域の積極的な連携を行い、子ども、教職員、保護者、地域の人々が信頼関係で結ばれた学校づくりに取り組みます。

## (1) 互いに人権を尊重し合い、一人ひとりが主体者として活動する学校になります

年齢、性別、文化、身体状況など人びとが持つさまざまな個性や違いを越えて、互いに多様性を認め合い、思い合う心を持って活動します。自分が相手の立場に立ったときのことを想像し、自分のこととして理解することが求められます。これは学校のUD化の取り組みにあたっての基本となります。

これまでの「教える側」と「教えられる側」という固定的な考え方、「教える側」から「教えられる側」という一方的なとらえ方、それらを前提としたしくみや制度を見直し、あらゆる人が社会の一員としての役割を持ち、持てる力を発揮し、支え合う学校を「ユニバーサルな学校」と考えます。そこでは、人権が尊重され、自由な学習活動が保障され、一人ひとりが当事者として主体的・自主的にかかわることができます。

## (2) 学力が向上し、生き生きとした学校になります

子ども一人ひとりが、教職員をはじめ、保護者や地域の人に温かく見守られながら、楽しくわかる授業で充実感や満足感をもって意欲的に学習に取り組み、豊かな学校生活を送るとともに、自分や友だちの成長とともに喜び合う雰囲気にあふれた元気な学校づくりを実現します。

学校のUD化に取り組んでいくということは、これまでいかに「教える側」の視点に立ってすすめられてきたかということに気づき、これからは「学ぶ側」の視点に立っていくということを明らかにしていくことです。子どもや保護者などの声を取り入れた学び方など学校のしくみも変えていくことが大切であり、これまでできないものだと思っていたことの多くができるようになります。一人ひとりがこれまでと違った学び方をつくり出すことができ、誰でも学びやすく、みんなが楽しく学び合うことができます。

学校のUD化に取り組むことにより、地域みんながかかわって学校が活性化し、文化となり、地域の誇りやパワーを掘り起こし、ひいては人づくりや地域づくり・まちづくりにつながっていきます。

## (3) 誰もが楽しく通える学校になります

私たちそれぞれが、不便だ、不快だ、危険だと感じていた建物や通学路をはじめいろいろな設備やサービスが整備されることで、今まで以上に通いやすく、使いやすくなります。子どもたちが楽しく通え、誰もが安心・快適に利用できる学校づくりを実現します。

ユニバーサルな学校は、みんなが楽しく通える学校であり、その実現は、子どもたちだけのためではなく、すべての人自身の問題であることを改めて気づいてほしいと思います。

子どもに限らず、そこで働く教職員をはじめ、保護者や地域の人々が学校で不便や不快を感じるのは、不便や不快を生み出す学校や社会のしくみの問題であるともいえます。これからは発想を大きく転換し、不便や不快を見直していく必要があると考えます。

### 3 取り組みの内容

学校UD化の実現に向け、最も基本となるのが「まなび」を変えることです。そして、「意識づくり」「しくみづくり」「学校づくり」のそれぞれの分野でユニバーサルデザイン（UD）の取り組みを推進します。そして、それらは相互に深く関わりながら、補完的・一体的に展開していくことで、すべてが私たちの暮らしとなり、ユニバーサルな社会の実現につながるものです。また、学校のUD化は、市民参加・参画のプロセスを経ながら、常に見直しを重ね、魅力的な学校づくりをめざして進化しつづけていくものです。

#### (1) 取り組みの視点

学校のUD化を実現するために、次の7つの視点に留意しながら、具体的な取り組みをすすめていきます。

#### 学校UD化の視点

##### ① みんなで考え、改善する学校

ユニバーサルデザイン（UD）は、規格や基準に従って整備すれば満点ということはなく、常に改善していこうという姿勢が大切です。そのため、地域ごとに、子どもたちや保護者、教職員、地域住民、利用者など、多様な主体が継続的な改善を生み出すためのしくみを形成し、みんなで望ましい学校のあり方および改善方策を協議し、学校の総点検プログラムを開発し、合意形成を図り、実行していきます。

##### ② 楽しく、安全・円滑に学べ、利用できる学校

連続性・選択可能性・地域性の観点を重視しつつ、あらゆる人が楽しく、安全かつ円滑に学べ、利用できる学校施設を整備していきます。さらに、関係機関との連携を通じて、子どもたちが自宅から学校まで、安全かつ円滑に移動できる環境の整備にも努めます。

##### ③ 必要な情報がすぐわかる学校

子どもたちや保護者が、迅速かつ的確に必要な情報を入手し、不安を感じることなく、学ぶことができ、子育てができるよう、適切で、きめ細かな指導や相談ができる体制としくみを整備していきます。さらに、あらゆる人が、迅速かつ的確に必要な情報を入手し、不安を感じることなく、学校の施設・設備を利用できるよう、適切な案内情報の提供や内容・表示のわかりやすさ、見つけやすさと位置の適切さなどに配慮した案内・誘導環境を整備していきます。

##### ④ 使いやすい施設・設備のある学校

体育施設やトイレなど、あらゆる人にとって、安全に配慮され、使い勝手がよい施設や設備が整えられ、またそれらに近づきやすく、操作しやすい環境を整備していきます。

### ⑤ 人と人が支え合う学校

あらゆる人に対して、安心と信頼を生む人的サービスが提供されるとともに、子どもたちや保護者、教職員、地域住民、利用者などが、多様性を認める心とマナーを保ち、互いに声を掛け合い、自然にサポートし合えるあたたかい学校とするため、必要な機会を提供していきます。

### ⑥ まちづくりにつながる学校

学校が単なる子どもたちの教育施設でなく、生涯学習・防災・福祉をはじめ人びとの暮らしに密着した活動を展開する場となるために必要な機能と機会を確保していきます。また、まちづくりの中で学校が果たす役割を明確にし、周辺の街並みなどと連携した整備・活用を推進していきます。

### ⑦ 自然と調和した学校

子どもたちが楽しく学べる学校にするだけでなく、周辺地域の持つ優れた自然環境を回復・保全・創造し、調和を図っていくことにより、多様な動植物が生き生きと暮らし、豊かな生態系が保たれた持続可能な学校をつくっていきます。

## (2) 子どもの成長過程を大切にします

子どもは、かけがえのない自分らしさを認め、生きる意味を見だし、生きていることの充実感をもって成長していく過程で、新たな生き方をつくり出そうとする意欲や意志を自ら培っていきます。

このような成長過程を歩みながら自己実現に向かって変容していく子どもの「成長像」は、大人が指し示すものではなく、子ども自身が、自分らしく生きていこうとする中で見つけるものなのです。

「自分をつくり八幡をつくる子ども」として、子ども自身がそれぞれの成長過程の中で、充実した生き方を実現していくとともに、それを支える人間（ひと）としての基礎、基本を身につけられるよう、教職員は様々な創意工夫を行い、子ども一人ひとりの個性を認め、子どもが自らの“夢”と“志”をはぐくむことのできる教育活動を行います。

# 《学校UD化構想の施策体系》

市民から学校が信頼され、子どもたちが安心して通うことのできる、楽しく魅力ある学校づくりのため、ユニバーサルデザイン (UD) を基本理念として、「かたち (体制・仕組)」と「きもち (発想・意識)」を変え、子どもたちの“夢”と“志”をはぐくむ教育を実現します。

互いに人権を尊重しあい、一人ひとりが主体者として活動します

互いの多様性を認めあい、すべての人が社会の一員としての役割を持ち、持てる力を発揮し、支えあう学校

一人ひとりを大切にする意識づくり

☆人びとの多様性の認識  
☆情報発信の推進  
☆市民活動としての展開

学力が向上し、生き生きとした学校になります

子どもや保護者などの声を取り入れた、学び方など学校のしくみを見直し、誰もが学びあう学校

誰もが参加・参画できるしくみづくり

☆誰もが教育参画できるシステム  
☆誰にでもわかる情報提供  
☆多様な教育サービスの提供

誰もが楽しく通える学校になります

子どもたちが楽しく通え、誰もが安心・快適に利用できる学校

安全・安心で快適な学校づくり

☆安全で快適な学校づくり  
☆誰もが利用できる学校づくり  
☆八幡の資源を生かした学校づくり

UD化に向けた活動

「かたち」を変える

「きもち」を変える

学校の再編整備

- ◎小中学校の再編  
男山中キャンパス  
二中キャンパス  
三中キャンパス  
東中キャンパス
- ◎不登校児童生徒支援の充実
- ◎学習環境の整備  
校舎の耐震化とアメニティ化  
学習と事務のIT化  
通学路の安全確保

連携教育の推進

- ◎小中高一貫教育の実施
- ◎保幼小連携教育の充実
- ◎キャリア教育の実施
- ◎研究開発校の設置

楽しくわかる授業の実現

- ◎『八幡市学習指導基準』の設定
- ◎2期制の実施 (学期制の廃止)
- ◎ユニット担任制の導入
- ◎時間割のモジュール化
- ◎学習支援機能の充実
- ◎小学校英語活動の充実

学校マニフェスト制度

- ◎学校マニフェストの作成
- ◎学習と生活の3つの協約  
eスクールの協約 (学校⇄市教委)  
まなびの協約 (子ども⇄学校)  
はぐくみの協約 (保護者⇄学校)

学校満足度の向上

- ◎学校満足度調査の実施  
児童生徒・保護者調査
- ◎学校評価の充実  
組織運営に関する分野  
教育活動に関する分野
- ◎子どもの特徴やニーズの把握  
入学時ニーズ調査

社会力の蓄積

- ◎「家庭力」と「地域力」の再構築  
「ネットワーク」「規範」「信頼」の蓄積
- ◎『みちしるべ』の作成  
学習と生活の『みちしるべ』の作成
- ◎はぐくみ協議会の充実
- ◎はぐくみネット・プランの充実
- ◎スクールサポート・バンクの充実

「まなび」を変える

実現に向けて

【学校の役割】

☆子どもたちが自己実現を図れるよう、基礎基本の徹底や社会性を身につける教育活動を推進する  
☆社会の変化に対応し期待に応える教職員の育成  
☆教職員と子ども・保護者相互の理解や信頼を深める

【家庭の役割】

☆基本的な生活習慣の確立と、基礎的な資質・能力、基本的倫理観の育成  
☆家庭における学習習慣の確立  
☆学校教育・PTA・地域行事へ積極的に参加する

【地域の役割】

☆地域の誰もが自分の住む地域に誇りと愛着を持ち、手を携えて、子どもの成長を支援していく環境づくり  
☆一人ひとりがみんなの役割を認め合い、支えあう心を持って、困っている人に自然に手を差し伸べることのできるまちづくりに取り組む

## 八幡市学校UD化構想

---

～子どもの“夢”と“志”をはぐくむ八幡の学校改革～

編集・発行 八幡市教育委員会

〒614-8501

京都府八幡市八幡園内75番地

TEL 075-983-1111 (代)

FAX 075-983-1430

HP <http://www.city.yawata.kyoto.jp/>

